

# 205

こんにちは。塾長の大井です。

5期生受験戦記第10回です。

前回の続きです。

受験も徐々に迫ってきた秋頃だったと思います。Sくんは元々血压にいささかの問題があり、足の血流が悪いという時期がありました。急に立ち上がると転倒する危険もあるらしく、学校に通いづらくなり、午前中は休んで午後から行くという時期もありました。それでも本人はTOPを休みたがりませんでした。

「先生、いつ立ってもいいようにヘルメットをかぶっていいですか！」と聞き、ニコニコヘルメットをかぶって授業を受けていました。さらに気のいいクラスメートたちは、“Sくん支え係”まで務めてくれ、トイレに立つ度にそばで腕を支えてあげていました(特にUくん)。

そんな中で徐々にSくんの症状は好転し、秋の面談を迎えました。そこでお父さんお母さんがおっしゃったことをよく覚えています。

「私たちからしばらくゆっくり休む？って提案したんです。そしたらあの子、『他の受験生なら多分休むと思う。でも僕はTOP生だから、今がんばりたい。授業を受けたいんだ。』って言ったんです。昔から自分の意志を強く示すことが無い子だったので、成長したなあ、本当にTOPが好きなんだなあと驚きました。」

それを聞いて私たちも驚きました。いつもニコニコ笑って、普段は全く気丈なところを感じさせなかったSくんの中に、いつしか芽生えたTOP生としての矜持を垣間見た思いでした。

前章のTYくんにしろ、このSくんにしろ、共通して潜んでいたのはこの強い意志でした。いや、より正確に言えば、道を歩む過程で**強くなっていった**意志です。

始まりの能力の高さではなく、先天的な地頭のよさでもなく、自分が誠実に道を歩むことで芽生えていく、この道を愛したいという想い。

先生や戦友とつながって共に勝ちたいという想い。

支えてくれる親御さんに恩返ししたいという想い。

まだ何者でもない自分にも確かに何か価値があるという想い。

TOP で道を歩む中で、そんな本気や誠意が育まれていくのは私たちの最大の喜びです。

私たちはそれを TOP ism と呼んでいます。

結局 S くんは倒れることはありませんでした。

身体的にも、そして精神的にも。

S くんは、合格を譲れない、たくましい TOP 生へと成長しようとしていました。

(第 1 1 回へつづく)

2019 年 1 0 月 2 1 日

大井雄之